

アフターデスティネーションキャンペーンにおける本市の取組について

1 アフターデスティネーションキャンペーン（DC）について

- ・ 平成31年4月1日から6月30日まで、JR東日本と栃木県、地域が連携した観光キャンペーン「本物の出会い 栃木」アフターデスティネーションキャンペーン（DC）が開催され、一昨年同時期のプレDC、昨年同時期のDCと3か年にわたるDCの最終年を迎える。

2 DC（2か年）における総括

- ・ まちなかでの餃子通りのオープンや宮のSAKEフェスなどの新規イベントの開催、また、大谷地域での石切テラスの整備や夜間のライトアップなどにより、入込客数及び宿泊者数が増加した。
- ・ 民間事業者をはじめとした、様々な関係者の観光振興に対する気運が高まり、その連携も深まった。
- ・ 一方で、観光客の滞在時間の延長や宿泊者の増が重要であることから、ジャズやカクテルなど、本市の夜の観光資源の更なる活用により、地域内消費を促進する必要がある。
- ・ 今後、民間事業者等がこれらのDCでの取組を継続的に実施できるよう支援するとともに、引き続き、観光資源の磨き上げや情報発信に取り組む必要がある。

3 アフターDCにあたっての基本的な考え方

- ・ DCの成果や課題について宇都宮市DC推進委員会などの観光関係者と共有しながら、DCで整備した「餃子通り」の更なる磨き上げをはじめ、「日本遺産」に認定された大谷石文化の活用、「夜の観光」の充実・強化を図りながら、観光誘客に取り組んでいく。
- ・ また、DCをきっかけとして始まった事業やDCで高まった気運が一過性のものにならないよう、DC終了後を見据え、JR東日本をはじめ、旅行会社や市内事業者などとの連携を一層深めながら観光事業に取り組むとともに、宇都宮市DC推進委員会の継続など、官民一体となって本市観光を推進できる体制の構築を検討する。

【参考】宇都宮市DC推進委員会構成員

宇都宮市（広報広聴課，観光交流課，都市魅力創造課，農林生産流通課，文化課），観光コンベンション協会，商工会議所，シティガイド協会，餃子会，カクテル倶楽部，ジャズ協会，ホテル旅館協同組合，交通事業者，観光事業者等

4 平成31年度アフターDCの主な取組

宇都宮市DC推進委員会をはじめ、民間事業者、宇都宮市などが連携を図りながら、更なる周遊促進や宿泊促進に向け、本市の観光資源を十分に活用しながら各種事業を展開していく。

(1) 宇都宮市DC推進委員会

ア 新規・拡充事業

- ・ 餃子通りの整備（拡充）
⇒ 電柱への餃子オブジェの設置，自動販売機へのラッピング
- ・ 餃子・ジャズ・カクテル共通チケットの販売（拡充）
⇒ これまでの券種に加え，複数の金額設定を追加
- ・ 日本遺産をめぐるモバイルスタンプラリーの実施（新規）
⇒ 観光アプリを活用し，構成文化財等を巡るスタンプラリーを実施
- ・ カクテルバーツアーの開催（新規）
⇒ ガイド付きで市内のカクテルバーを巡るツアーを開催
- ・ まちなか情報発信拠点の設置（新規）
⇒ 中心部の商業施設に臨時観光案内所を開設するとともに，観光パネルを展示

イ 継続事業

- ・ 大谷石岩肌のライトアップ
- ・ 大谷地域での石切テラスの開放
- ・ 宇都宮市産農産物を使用したあさごはんフェアの開催

(2) 宇都宮市

ア 継続事業

- ・ 市内北西部地域を巡る周遊バスの運行
- ・ 宇都宮美術館での「旅」をテーマとした展示会の開催

(3) 民間事業者等

ア 新規・拡充事業

- ・ 若山農場におけるライトアップの実施（拡充）
⇒ 竹林のライトアップに加え，竹を使ったオブジェ（竹灯り）のトンネルを設置
- ・ JR宇都宮駅でのジャズによる発車メロディの実施（新規）
⇒ 在来線ホームの発車メロディを「カフォルニアシャワー」（渡辺貞夫）で実施
- ・ 宇都宮と日光を結ぶ観光バスの運行（新規）
⇒ JR宇都宮駅発着で，大谷周辺と日光の観光スポットを周る観光バスを運行

イ 継続事業

- ・ 大谷資料館での教会ゾーン特別公開
- ・ ろまんちっく村での体験事業の実施

○ 本市におけるアフターデスティネーションキャンペーン期間（４～６月）の目標

- ・ 観光客入込客数 ３５４万人
- ・ 宿泊者数 ４２万人

※ DC（平成３０年４～６月）実績以上の確保を目標として設定

５ スケジュール

平成３１年２月～ SNSなど各種媒体によるプロモーションの開始

４月～６月 アフターDC

※４月６日にJR宇都宮駅２階イベントスペースにおいて、
アフターDCオープニングセレモニー開催